

広報

第72号



令和6年2月

巻頭特集

東北管区教化センター―布教師教化協議会

瑩山禅師を学ぶ

大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禅師

七〇〇回大遠忌にあたり

講師 横山龍顯先生を囲んで

令和6年能登半島地震へのお見舞い

このたびの能登地方を震源とする令和6年能登半島地震によって、お亡くなりになられた方々のご冥福を慎んでお祈り申し上げます。また、被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

曹洞宗東北管区教化センター 統監 高橋哲秋



SOTO ZEN

曹洞宗東北管区教化センター
〒981-3117 仙台市泉区市名坂字楢町169-4
TEL.022-218-1381 FAX.022-218-1382
<http://soto-tohoku.net/>
e-mail: kyouka@seagreen.ocn.ne.jp

法話

カラスに催おさるる、
利行に催おさるる

曹洞宗東北管区教化センター―布教師 鈴木慶道

被災地のお寺は今

第14回 「令和5年秋田豪雨災害を通して

お寺と地域のあり方を考える」

秋田県 宝昌寺住職 新川泰道

令和5年度行事報告

布教師講習会

布教師特設検定

教化指導員研修会

令和5年度 禅をきく会

曹洞宗婦人会東北管区研修会

特派布教と青森県伝道車巡回布教

坐禅ナイト2023春

坐禅ナイト2023秋

第53・54回教化フォーラム

教化資料紹介

令和6年度行事予定

東北管区教化センター布教師教化協議会

瑩山禪師を学ぶ

大本山總持寺開山太祖瑩山紹瑾禪師

七〇〇回大遠忌にあたり

講師 横山龍顯先生を囲んで

◆瑩山禪師のみ教えを現代にどう生かすか◆

司会…教化センター推進企画委員 桐野好覚

11月28・29日の両日行われた東北管区布教講習会に引き続き、二十九日午後一時より教化センター布教師の教化協議会が開催された。

周知の通り、令和六年度は大本山總持寺開山瑩山紹瑾禪師七〇〇年大遠忌が営まれるが、これを機に改めて瑩山禪師について学ぶこととした。その中で、いかに多くの方々に広く瑩山禪師を知っていただき、かつ瑩山禪師のみ教えをこの現代に

どのように生かしてゆくのかを、教化センター布教師と布教講習会講師をお勤めいただいた、愛知学院大学准教授横山龍顯先生同席のもと、質疑応答も含め協議が行われた。

今回の協議会の内容は、29日午前中に行われた横山老師の講義を元に進められたが、講義に参加していない宗侶及び、この広報をお読みになっっている方がお解りいただけるよう配慮した。



司会…これより「瑩山禅師のみ
教を現代にどう生かすか」と
題して、愛知学院大学宗教文化
学科准教授横山龍顯先生にお
話を伺いながら進めてまいり
ます。

司…初めに、先生はどのような
ご研究をなされているのか教え
てください。

横山…私は大学時代に西洋哲学
を学び中世ドイツを専攻し、大
学院に進んでから仏教を学び始
めました。大学院に進んだ折に
瑩山禅師の研究が多角的にな
されていないと気づき、ちょう
ど池田魯参先生が天台学・道元
学・瑩山学の三本柱でご研究を
始められた時でしたので、本格
的に瑩山禅師について学び、書
誌学的・文献学的に研究を進め
てきました。研究を始めた当
初、瑩山禅師の著述の中には本
物と正式に確定されているもの
が少なく、『伝光録』でさえ瑩

山禅師の著述ではないとおつ
しやる方もいる時でしたので大
変困りました。そもそも資料が
乏しく、文献を探すことから始
めました。暗中模索の時、『伝
光録』の擬撰説を否定できる資
料として、石川県七尾市の龍門
寺さまが所蔵されていた『正法
眼蔵仏祖悟則』を見つけ、『伝
光録』に十四世紀の写本が存し
たことがわかり、更なる研究に
取り組むことができたのです。
『正法眼蔵』では写本によって
文章が違うという事がほとんど
ないのに対し、『伝光録』には
三十三種類の写本があります
が、これが衝撃を受けるほどそ
れぞれ中身が違うのです。書き
写す中で誤字があることはよく
ありますが、大部分は後の人が
良かれと思って文章を変えたも
のが多かったのです。変えられ
れば瑩山禅師の説法から遠ざか
るため、最も瑩山禅師の説法を
そのままに記録しているものは

どれなのかと考え、各種写本を
一字一句見比べながら調べてい
ますが、未だ終わりが見えませ
ん。そのままに記録しているであ
ろう文献を確定できれば、瑩山
禅師の思想研究が本格的に始
められると思います。ですから
今は道半ばというところです。

道半ばなのでまだよく判りま
せんとはいえないと思うので、
それと並行して、瑩山禅師の教
えはどういうものなのかを、道
元禅師と比較するということ
を通して研究しています。

比較調査することで思想的な
流れというものが判つてきま
す。瑩山禅師は道元禅師のどの
ようなところを受け取られて、
どういうところをそれほど重要
視されなかったのか、または、
道元禅師とは少し異なることを
おっしゃっている部分があるな
ど、そういった部分がより明確
になってくれば、道元禅師と瑩
山禅師の教えの重なる部分、あ

るいは異なる部分がより明瞭に
なるのではないかと考えて研究
をしています。

司…ありがとうございます。先
生は射程の長い研究をなさって
いるのだと改めて感じました。
昨年、曹洞宗総合研究センター
の学術大会で、先生が『伝光録』
の写本の系統を細かく分類され
たのを拝聴し、大変敬服いたし
ましたのと同時に、『伝光録』
の研究がそこまで手が付けられ
ていなかったことに衝撃をうけ
ました。この四半世紀、あるい
は半世紀ほどの間にずいぶん瑩
山禅師に関する認識は書き換
わってきたと伺っていますが、



六五〇回大遠忌から50年で新たに解明されたことを教えてくださいます。

横…昭和49年（一九七四）に六五〇回大遠忌を迎えた際に、初めて多くの学者によって瑩山禪師に注目が集まり、また様々な資料・文献が発見されます。そこで大きなことが二つ判りました。一つは、『洞谷記』は瑩山禪師が書き残したものをそのまま書き写したものであるという事、もう一つは没年・世寿六十二歳が正確と確認されたことです。『伝光録』に於いても瑩山禪師のものではないと提唱がありつい最近まで擬撰説が通ってきたが、七〇〇回大遠忌に向けての研究の末、『伝光録』も瑩山禪師の撰述で間違いのないとなりました。

司…瑩山禪師の研究はいつごろから始まったのでしょうか。

横…今の我々研究者が行っているような研究が始まったのは

明治時代からです。それまでも祖師方の参究は各宗派でされてきましたが、特に曹洞宗においては道元禪師に関する分野、『正法眼蔵』『永平広録』

あるいは『赴粥飯法』『典座教訓』など様々な著書に対して参究がなされ、注釈書も出されて道元禪師のみ教えを学ぶことができましたが、瑩山禪師の場合、『伝光録』は知られていませんでした。『伝光録』が世に広まったのは幕末の安永4年（二七七五）。彦根清涼寺の仏洲仙英和尚が柳枝軒より出版したことで広く世に知られるようになります。しかし、明治時代に瑩山禪師のものとして知られていたのは、恐らく『瑩山清規』と『坐禅用心記』『三根坐禅説』くらいでした。他の書物は知られていないので研究もされていない状態でした。正にゼロからスタートしていくわけです。その折に、今の私たちが頂いております「一仏両祖」という考

え方が明治9年（一八七六）あるいは明治10年（一八七七）に成立します。門派の祖として名前だけは知られていた道元禪師と瑩山禪師が高祖さま・太祖さまとして同一になるわけです。

すると、宗祖の道元禪師は様々な注釈書や『正法眼蔵』で皆に知られているのですが、瑩山禪師とは誰なのかという話になってしまいます。そこで總持寺や曹洞宗がとった施策は、瑩山禪師を仰ぎ奉りながらとりあえず周知させて行かなくてはいい。そうなる、学術的に瑩山禪師を学ぶのではなく、江戸時代に作成された伝記などを通して、瑩山禪師の素晴らしさを伝えること、大まかに広く伝えることが重要視されたわけです。

司…現在では瑩山禪師の著述が刊行されるようになり、禪師のみ教えやお考えに触れることが容易にもなりましたが、大きな

進展を私たちは享受していると

いうことを知りました。近年、現代語訳の『洞谷記』（現代語訳・瑩山禪師『洞谷記』春秋社）が出版され、多くの宗侶が手にしたとも聞こえてきます。永光寺・總持寺を瑩山禪師がどう見ていたのか、『洞谷記』から読み取れますね。

横…『洞谷記』を読んでいると、永光寺という寺は瑩山禪師の理想を具現化した寺だと感じられます。ゼロから檀越とともに作り上げていった足跡から、永光寺を重要視されていたことが如実にわかります。また、お寺が支援者に支えられながら、そして瑩山派の僧侶によって守っていくというシステムも作られ、そのことは、「洞谷山尽未来際置文」（とうこくさんじんみらいさいおきぶん）を読みますと非常によくわかるわけです。永平寺において檀越が少し距離を置いていた様子や、大乘寺の後を任せられた孤峰和尚の臨済化など、ちょっとしたことで存続できなくなる

ことがわかった。故に、道元禪

師の教えを絶やさないために、自分はどうしたらいいのだろうか」と常に考えて、それを実行に移したのが永光寺だったと考えられます。その中で、檀越と僧侶の関係性、お互いに敬い合う、互いに切磋琢磨しあう形を作られたのです。さらに、永光寺では仏殿や法堂を最優先に建てられ、檀越または信徒に対する教化、宗教儀礼の空間を整え、説法教化を一生懸命行っていきま

した。永光寺が軌道に乗ってから建てられたのが總持寺です。總持寺の方は僧所つまり修行をする場所と位置付け、永光寺で行うような檀信徒教化は最低限にとどめ、ひたすらに坐禅を中心とした寺とされ、寺ごとに役割分担をしていきます。總持寺で修行して仏法を体得された方が永光寺に来て檀越の教化をしてゆくというシステムを、瑩山

禪師はお考えになって実行されたのだと思います。その永光寺を明峰素哲禪師に、總持寺を

峨山韶碩禪師に譲られるわけですが、恐らく峨山禪師は僧侶の育成に長けていたためにお譲りになったのではと考えるのです。結果、峨山の五哲、二十五哲といわれる優秀な弟子たちが輩出されております。

司…『洞谷記』を読みますと、瑞兆や靈驗・靈夢のような不可思議な表現が多く記録されていることに気づきます。現代の科学的・合理的な思考に慣れた私たちの見地からすると首をかし



横山龍顯先生

げてしまう場面が無きにしも非ずなのかもしれませんが、その辺りはどうでしょうか？

横…『洞谷記』には、夢の話など枚挙にいとまがないとはこのことかというくらい出てきますが、瑩山禪師は占術も使われていました。占いが好きということではなく、鎌倉時代の人々にとつて確かな現実であったわけでは

それは、当時の日本では当たり前前の日常の風習であり、現代の私たちとは感性が違います。五老峰の建立の際にも占術を使っていました。そういったリアルな中世人としての瑩山禪師の姿が垣間見えて、非常に興味深く

思います。記録は残っていないのですが、もしかすると道元禪師もそういう人間味があったのではと思うのですが、瑩山禪師には『洞谷記』があるためにいろいろと判るのです。

司…道元禪師も『正法眼蔵』「嗣書」の巻で大梅法常禪師が夢

に出てきたと記されています。このことは宋に滞在中も帰国してからも誰にも語ったことはないと言われていて印象的です。そういう慎重な態度、口にされない立場なのかと思いますが、道元禪師も夢の中で漢詩を詠まれた話もありますね。夢

のお告げ・靈夢に対する捉え方は、中世と現代では異なるものがあるのかも知れませんが、仏菩薩への祈願・誓願というものは、中世も今も変わらないように感じます。瑩山禪師の印象的な誓願のお話もお聞かせいただければと思います。

横…『洞谷記』の中で、瑩山禪師は亡くなる年に二つの大きな誓願を立てられています。一つは「生生世世において衆生を救済する」という誓願。もう一つは「女人救済」の誓願です。生生世世は言うまでもなく生まれ変わつたとしても僧侶となり生きとし生けるものを救済していくのだという誓いがあります。

道元禪師も遺憾で「活きながら黄泉に陥つ」と衆生に対して思いを述べられていたと思うのです。これに瑩山禪師も想いを同じくしたのではないのでしょうか。もう一つが女人救済です。瑩山禪師は類を見ないくらい尼僧のお弟子さまもたくさんおられました。これは母・懐観大姉が「私の代わりに救済を」と遺言されたためです。特に永光寺に入ってから積極的に尼僧さまをお弟子さまにされており

ます。
司…一仏両祖ということで道元禪師と瑩山禪師は一如であるという見方や説き方が行われてきました。道元禪師と瑩山禪師の説き方に違いはあるのでしょうか？

横…瑩山禪師の教えを見ると、道元禪師の教えをそのまま受け継いだ部分が一つ。そして道元禪師が積極的に説かなかったことをあえて補足説明したことが

二つ目。三つ目は道元禪師のみ教えから更に一歩進められましたが、それは説法し法を伝える、教えを人に説くということに大変力を尽くされたということです。瑩山禪師は道元禪師の著述を徹底的に研鑽され、とてもよく理解されていた。知っているからこそ、道元禪師が詳しく説いていない部分もしっかりとわかっていたのです。そのため、そのまま受け継いだところと、あえて補足説明を加えたところもありました。特に、『伝光録』に出てくる一仏五十二祖はすでに『正法眼蔵』『仏祖』巻によって、名前は道元禪師が明らかにされていますが、瑩山禪師は日本曹洞宗に一直線に繋がる祖師方の行状を詳しくお説きになりました。そしてもう一点、道元禪師を詳しく学ぶ傍ら、「天童の覚和尚」で知られる宏智正覚禪師も非常によく学ばれ、『伝光録』では道元禪師の言葉を解説するために宏智

しょうかく
正覚禪師の言葉を非常によく使用されたことです。説法の意義を復権させたこと、そして、宏智正覚禪師の考えに基づいた道元思想の理解というものが新たに曹洞宗にもたらしたものであると考えております。

司…正伝の仏法の相承、そしてさらに進一歩の姿、また檀信徒の方々との師檀和合、相承発展のため門葉一門が一意同心に歩む姿、様々な瑩山禪師の教えは、まさに今の曹洞宗の私たち宗侶に伝わっていると思えます。ここで皆様からのご意見ご質問をいただきます。

Q1…大変多くのことをお聞きしましたが、總持寺と永光寺を区分けする必要はあったのでしょうか。それぞれの専門と申しますか、宗侶養成と檀信徒教化は一緒では難しかったのでしょうか。

横…それは大変難しいと思

います。たとえば現代で考えますと、安居して師寮寺に戻って教化をするということになります。が、やはりきちんと安居したということが檀信徒の方々にとって安心材料であると思います。法を説く人が生半可ではいけないと瑩山禪師も考えたのではないのでしょうか。

Q2…私自身、住職として檀務で布教をする中で、宗教性の神秘主義的などころに陥らないように気を付けて、ご講義にあつたように奥深いところの宗教心を掘り起こしていくように気をつけています。瑩山禪師の占いへの傾倒の部分で当時の状況として大変信じられていたとおっしゃっていましたが、横山老師ご自身が法話をされるときはその点どのようにバランスをとっていますか。

横…方便として使うことがありますが、一仏両祖の説かれたことから離れすぎないように、あ

まりにも仏教思想から離れないようにしています。

Q3..曖昧になっていた瑩山禅師の様子がわかりました。特に現代の寺離れから「尽未来際置文」の文言が身に染みた思いです。一方で教科書などでは瑩山禅師が密教を取り入れたために曹洞宗は拡大していったとよく目にしますが、どの程度学ばれて取り入れられたのでしょうか。

横..鎌倉時代の一般的常識、そして求められたものとして仏教Ⅱ密教というものがありません。瑩山禅師が密教を取り入れたとありますが、『宿曜経』という密教経典を使って星読みをされていたので、取り入れたと認識されたのだと思います。また、安易にカテゴライズして祈祷Ⅱ密教という人もいますが、祈祷はどこでもすることなので、瑩山禅師がそんなに密教ばかり使っていたとは考えてはい

ません。むしろ広まったのは、禅の教えの方が魅力的だったからだと理解しています。密教を取り入れて道元禅師の純粹さが失われたとか、密教を取り入れて広がったというのは少々一面だけを見すぎているのではないかと疑問に思っています。

Q4..法戦式で『従容録』を使用するのは瑩山禅師が宏智正覚禅師をよく用いられたことと関係がありますか。また永光寺を檀信徒教化、總持寺を修行の道場として明確に位置付けして寺院を構成していたのであれば、これから宗侶が減少する中で、本山の運営と永光寺と祖院の関係を見た時の今後の解決のヒントになるのではないのでしょうか。

横..『従容録』は謎の部分があり、いつから日本で使われてきたかが定かではありません。瑩山禅師の後の曹洞宗では『宏智語録』しか使わず宏智宗のよ

うになった時期もあったので、『従容録』を選んで使用し、現行の法戦式が江戸時代から出来上がっていったと考えられます。もう一点の永光寺・總持寺のような分業制ですが、ほかに尼僧寺院もあったが檀越が増えづらかったので、永光寺にもらった莊園を尼僧寺院に付け替えるなど対策されていたようです。余剰分を他の寺院に分配するような形をとられていた。確かに今後の曹洞宗も違う寺院運営を考えなければいけないかもしれません。

司..大変緻密な研究成果に基づき、詳細なお話を頂戴することができました。道元禅師がお伝えになられた正法の灯火を確かに相承し展開して、宗門の興隆を図り、衆生済度・女人救済の誓願を宣揚し、そして師檀和合を肝要と据え、現在の曹洞宗に繋がる、まさしく「寺統の祖」と呼ばれる瑩山禅師のみ教え

を、改めて仰ぎ見る思いがいたしました。

間もなく迎える瑩山禅師七〇〇回大遠忌に向けて、改めて瑩山禅師をお慕いするとともに、我々センター布教師一同さらに教化に勤しんで参りたいと存じます。本日は誠にありがとうございました。



教化センター
布教師紹介



三宅 大哲 師
照源寺副住職
宮城県
第13教区311番



長谷川 俊昭 師
耕徳寺住職
宮城県
第11教区288番



楠 恭信 師
長照寺住職
福島県
第16教区311番



田中 徳雲 師
同慶寺住職
福島県
第14教区254番



長岡 俊成 師
大安寺副住職
青森県
第8教区119番



浅山 賢正 師
儒童寺住職
青森県
7教区93番



渕澤 皓英 師
円城寺副住職
岩手県
第4教区81番



晴山 弘俊 師
實相寺住職
岩手県
第1教区35番



小野田 貴純 師
龍蔵寺住職
山形第三
第3教区496番



三浦 信高 師
藏高院住職
山形第二
第5教区344番



遠田 旭有 師
秀林寺住職
山形第一
第19教区230番



木村 尚徳 師
成安寺住職
山形第一
第6教区67番



菅野 洸喜 師
名川寺副住職
宮城県
第5教区117番

新任教化センター職員



佐藤 道彦 師
光岸寺住職
秋田県
第14教区129番



鈴木 慶道 師
東光寺副住職
秋田県
第1教区14番



原 崇弘 師
総光寺住職
山形第三
第19教区732番

法 話 「修証義第二十三節」



曹洞宗東北管区教化センター布教師 鈴木慶道

「カラスに催おさるる、利行に催おさるる」

利行というのは、貴賤の衆生に於きて利益の善巧を廻らすなり、窮亀を見、病雀を見しとき、彼が報謝を求めず、

唯単えに利行に催おさるるなり、愚人謂わくは利佗を先とせば自らが利省かれぬべしと、爾には非ざるなり、利行は一法なり、普く自佗を利するなり

修証義第二十三節はお釈迦さまの大事な四つの智慧、四枚の般若のうち三つ目となる「利行」を味わってまいります。

「利行」の「利」という文字は「ききめ」や「効能」を表します。「利益」は一般的には「りえき」と読み、当期純利益といった言葉があるように、「収益や儲け」を意味しますが、仏教の世界では「りやく」と読み「仏の恵み」を意味します。「利益がある」という言葉がありますが、仏さまは、自分の周囲にいる人々を幸せにすることを自らの喜びとしており、このような他者のために何かをする行いのことを「利行」と言います。「利行とは貴賤の衆生に於きて、利益の善巧を廻らすなり」意識す

ると「利行とは相手の立場や性別、身分や家柄といった概念を超え、仏さまが人々に恵みを施すが如く、平等に救いの手を差し伸べることである」と、このように道元禅師はお示しです。

相手の立場や家柄などには関係なく、皆が幸せな日々を過ごすことを仏教では願っています。

しかし、私たち人間は少なからず自分勝手な生き物です。だからかのためににかをしようとしても、思わずとも損得や見返りを求めてしまうのかもしれない。このみ教えは周囲に存在するあらゆるいのちとの関わり方を説いたものですが、その本当のあり方は自然に心や体が動かされるという「催おさるる」という言葉で

動物を例えに示されています。

「窮亀」と「病雀」が出てくるところです。中国の故事に、ある人が窮地にいる亀を助けるものや病気の雀を看病するお話があります。後に、助けた動物が恩返しとして、彼らに立身出世をもたらすのですが、果たして困っている亀や雀をみたとき、彼らに打算的な目論見があったのでしょうか？私はそのようなことは微塵も考えていなかったと思います。報いなど求めずに、ただひたすらに利行の心を起こして助けたのでしょうか。

思い出すと、私が子どもの時にお寺の中にカラスがいたおぼろげな記憶があります。室内に、それもお寺の中にカラスがいるというのは考えにくいことです。しかし、先日、師匠に伺ってみると、30年ほど前に境内で怪我をして飛べなくなっていたカラスがいたので、行政に許可を取って、一時的にお寺で保護していたそうなのです。傷ついたカラスを一週間ほど保護したあとはまた空に飛んで行ったとのこと。

カラスはゴミを散らかしたり、お墓にあるお供え物をくわえて持っていったりと、人間からするとちよつと迷惑な存在です。しかし、飛ぶことができず地べたを這い回り、困っているカラスをみると自然と体が動いていた、まさに「催おされて」いたそうです。その後、保護したカラスが何かを持ってきてくれたり、恩返しにきたりということはなかったようですが、もしかすると、その一羽のカラスを通した幼少期の体験が、僧侶としての道を歩む私を導いてくれたりしたのかもしれない。

困っている姿に人間も動物も関係はありません、そこには他者のためにする純粋な行いがただあるのです。だからこそ道元禅師もこの故事を引き合いに出されているのでしよう。禅師の暖かみを感じずにはいられません。見返りを求めない、自分と他人の境目のない行いが「利行」です。あの人のためにこんなことをしてあげよう、そう思ったはからいを超えて、気がついたら動いている。相手の喜びが自分の喜びに感じる行いが自然にできるのが仏さまの行いとなります。「利行」は、自分と他人の隔てなく互いに利益をもたらし、私たちを催おし、導いてくれます。

(秋田県 東光寺副住職)

シリーズ「被災地のお寺は今」第14回

令和5年秋田豪雨災害を通して お寺と地域のあり方を考える



秋田県宝昌寺住職 新川 泰道

東日本大震災で犠牲となられた方々が十三回忌となる昨年は、様々な意味での震災を思い起こす一年でした。

3月11日には三年ぶりにコロナ禍以前の規模で各地にて慰霊行事、私は大槌町での法要に参加させていただきました。震災の犠牲者を悼むと共に今年こそは災害のない年にと祈願し4ヶ月、7月14日から続いた豪雨で秋田県内でも甚大な被害が発生、秋田市や五城目町などで七千軒もの住宅が浸水被害を受けました。

地元でも少ないながら床下浸水の被害にあい、お見舞いかたがた床下消毒等の相談に応じたり、更に被害の大きかったお隣の能代市はボランティア活動に参加、その後は被害が大きい五城目町や秋田市でも支援活動の一端に加わりました。

「災害関連死」を減らしたい

災害支援に精通しノウハウや経験豊富な県外からの「技術系」団体より、これまで以上に今回の水害で秋田県は大いに助けられました。作業を請け負う業者もフル回転で順番待ちの状況。重機を使った泥よせや、大工仕事にも長けたボランティアは浸水した床・壁板剥がしや仮床設置などの応急処置。また電気工事の知識があるボランティアは浸水したエアコン室外機を修復、昨夏の猛暑でエアコンが使えないのは死活問題であり、たいへん重宝されました。

彼らは「災害関連死を少しでも減らしたい」との心意気で被災者の心身のケアに努めながら、それらの技術や経験を存分に発揮してくれたことに感謝と敬意を表

します。残念ながら秋田には災害支援に特化した団体はほぼ皆無、彼らのノウハウと理念をどう受け継ぐかが今後の課題です。そんな中で、県外の大学生など若い世代も、ガソリン代など諸物価高騰の折にもかわらず、大勢駆けつけてくれました。



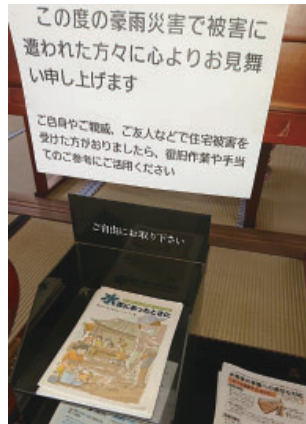
情報提供もお寺の役目

間もなくお盆期間に突入。現場に入ることは難しくなりましたが、せめてもの情報提供として各地の被災経験で蓄積された知見をまとめた『水害にあった時に』『水害後の家屋への適切な対応』等の冊子を適宜配布。お盆中に本堂で持ち帰り自由にしたところ、参拝者から「親戚や友人が被災したので見せてあげたい」、数十部があつという間になくなりました(同冊子は「震災がつなぐ全国ネットワーク」のサイトでダウンロード可)。浸水した家の傷みを軽減する対策や複雑な支援制度など、多くの情報



や知識も必要です。それらを檀信徒や地域の方々に提供することも、お寺の大事な役目と思われれます。

お盆が過ぎ現地での活動再開、浸水した仏壇や泥まみれの位牌についての相談を寄せられる場面も度々です。被災直後は目前の衣食住で手一杯、少し日が経って仏壇や位牌を気にされるといのは「災害あるある」。我々よそ者が提供できるのは、いわば「セカンドオピニオン」、菩提寺や最寄りのお寺が気軽に応じられる関係性が望ましいことは言うまでもありません。



『地域の絆』から生活再建へ

秋に入り、支援活動の重心が徐々に秋田市へ集約、都市の排水機能を上回る豪雨による今回の水害は「内水氾濫」。街は一見きれいな

雰囲気も漂いつつありますが、家の中は数ヶ月経っても水浸しの床や家財道具に囲まれた生活という住民もまだ多く、もうすぐ冬を迎えようとする中で課題は山積です。

発災直後、被害の大きな地区のコミュニティセンターは救援物資の配給、炊き出しの拠点等に、その後もふれ合いの場としてのお茶会、各種相談窓口として活用されてきましたが、被災後の困りごとを「どこに相談したらいいの?」との声は多く、その周知も兼ねて住民を元気づける催しを、との趣旨で落語会を企画。落語芸術協会と連携しているシャンティ国際ボランティア会(SVA)の協力で岩手県出身の桂枝太郎師匠を1月27・28日にお招きし、コミセン2か所、更に源正寺様(秋田市太平)も会場として名乗りを上げてくださいました。

同地区も被害が大きく、夏以降は地域の交流行事が中止に追い込まれるなど、災害は個々の直接的な被害のみならず地域コミュニティにも大きな影響を及ぼします。その『再構築』にお寺が果たす役

割は大きいことも、東日本大震災で学んだ重要な点でした。

当日は地区の婦人会や民生委員、地区社協の皆さんが会場設営や豚汁のお振る舞い。食材等は地元スーパー・いとくからの無償提供など、宗務所や奥曹青、宗務所婦人会の協力・協賛も得て大賑わい。師匠の落語が開始されると爆笑の渦! 東日本大震災での実話をモチーフとした演目「ユキヤナギ」では、笑いと共にホロツとさせる展開に目頭を押さえる聴衆も。被災体験のある地域や人々が、後の災害に遭った人々を応援という姿は過去にも度々目にしましたが、今回もそんな趣きとなりました。来場者から「久しぶりに大声で笑った」「同じ地区なのにしばらく顔を見れなかつた方とも会えた」「あんな水害があつたからこそ、時期をずらしてでも地域の交流の場が必要。今日は来てよかった」との声も寄せられ、お寺を場とした「地域コミュニティの再構築」という意味で、この落語会が役割を果たせたと思えば幸いです。

被災された方々の苦労は今なお

続いておりますが、地域の絆が深まりつつ、一日も早い生活再建につながることを願ってやみません。

(令和5年11月記)



令和5年度 行事報告

布教講習会

期 日 11月28日～29日

会 場 ホテルモントレ仙台

・講師

●特派布教師・山形県松林寺住職 三部義道 老師

「臨床布教師を目指す―法が良薬ならば―」

「法話の実践―作成から実演まで―」

●愛知学院大学文学部准教授 横山龍顯 老師

「瑩山禅師のご生涯―同時代資料に基づいて―」

「瑩山禅師のみ教え―道元禅師との関わりに注意して―」

●曹洞宗人権啓発相談員・静岡県伝心寺住職 井上正信 老師

「宗門の人権の取り組みの変遷について」

参加者 54名

三部義道 老師



横山龍顯 老師



井上正信 老師

布教師特設検定

期 日 7月27日

会 場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

受験者数 19名

教化指導員研修会

教化指導員研修会

期 日 7月26日

会 場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

・講師

●北海道大学大学院教授 櫻井義秀 先生

「カルト問題の現在―僧侶はいかに対応すべきか」

●前曹洞宗総合研究センター研究員 フェルナンデス浄賢 老師

「海外における曹洞宗と相互理解」

参加者 58名

櫻井義秀 先生



フェルナンデス浄賢 老師



令和5年度 禅をきく会

・会場 宮城県 楽楽ホール

・第184回 4月20日(木)

●曹洞宗特派布教師・新潟県東龍寺住職 渡邊宣昭 老師
「今ここをどう生きる〜1.5人称の関わり」

・参加者 118名

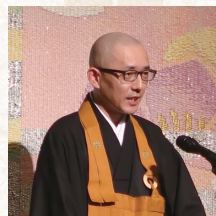


司会 教化センター布教師 佐藤道彦師 (秋田県)

・第185回 6月5日(月)

●落語家 六華亭遊花 師匠
「地域の輪はお国自慢の方言から」

・参加者 202名

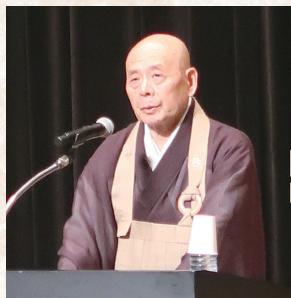


司会 教化センター布教師 洲澤皓英師 (岩手県)

・第186回 8月24日(木)

●大本山總持寺副貫首・岩手県正法寺専門僧堂堂長 盛田正孝 老師
「あなたは 仏教徒ですか」

・参加者 167名



司会 教化センター布教師 三浦信高師 (山形県)

・第187回 10月4日(水)

●民俗研究家 結城登美雄 先生
「東北の小さな村々から学んだこと」

・参加者 129名

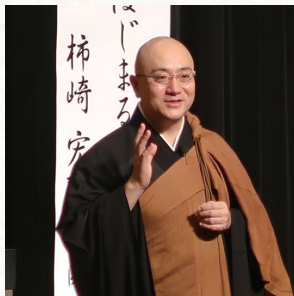


司会 教化センター布教師 鈴木慶道師 (秋田県)

・第188回 12月5日(火)

●曹洞宗特派布教師・青森県清涼寺住職 柿崎宏隆 老師
「感応道交―この人は私だからはじまる歩き方―」

・参加者 81名



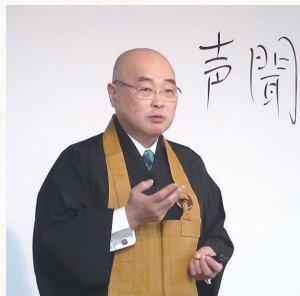
司会 教化センター布教師 三宅大哲師 (宮城県)

・会場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

・第189回 令和6年2月6日(火)

●学校法人梅檀学園 東北福祉大学学長 千葉公慈 老師
「楽しい集い ―仏典の教える 幸せのかたち―」

・参加者 197名



司会 教化センター布教師 楠恭信 (福島県)

特派布教と青森県伝道車巡回布教

・特派布教師・北海道天総寺住職 谷 龍嗣 老師

7月4日	五教区	澄月寺
7月5日	八教区	円流寺
7月6日	六教区	浮木寺
7月7日	二教区	昭傳寺
7月8日	一教区	安盛寺
7月9日	四教区	養老寺
7月10日	三教区	松源寺
7月11日	七教区	長泉寺



特派布教師
谷龍嗣 老師



坐禅指導
教化センター布教師
佐藤道彦 師



坐禅指導
教化センター布教師
浅山賢正 師



坐禅指導
教化センター布教師
長岡俊成 師

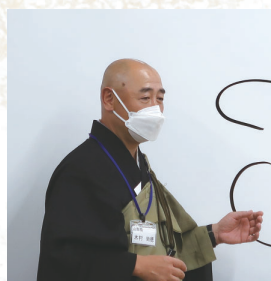


坐禅ナイト2023春

・会場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

第1回	5月9日(火)	坐禅入門	28名
第2回	5月16日(火)	身を調える	27名
第3回	5月23日(火)	息を調える	23名
第4回	5月30日(火)	心を調える	29名

坐禅指導 木村尚徳 師



坐禅ナイト2023秋

・会場 東北福祉大学仙台駅東口キャンパス

第1回	10月10日(火)	坐禅入門	16名
第2回	10月17日(火)	身を調える	12名
第3回	10月24日(火)	息を調える	11名
第4回	10月31日(火)	心を調える	12名



曹洞宗婦人会東北管区研修会

・期日 8月29日

・会場 宮城県 ホテルモンテレ仙台

・講師

● 大本山總持寺副貫首・

岩手県正法寺専門僧堂堂長

盛田 正孝 ささま

「世の中は私しだい」

盛田正孝 老師

参加者 73名



教化フォーラム

・会場 ホテルモンテレ仙台

・講師

● 特派布教師・山形県松林寺住職

三部義道 老師

第53回

・期日 7月20日

「修証義 第一章〜第四章 復習」

参加者 58名

三部義道 老師

第54回

・期日 9月15日

「生きるための修証義 その五」

その五

第五章〜報恩の

生き方

参加者 55名



教化資料紹介

お別れの言葉カード「言の葉」

〜お伝えしたい思いをお書きください〜

グリーンケアや癒しを目的として、檀信徒向けに作成したお別れの言葉カード「言の葉」。

枕経や入棺時に遺族にお渡しし故人への想いを綴って頂き棺に納めます。

お地藏様と観音様の手紙カードが各1枚、言の葉の由縁でもある菩提樹の葉型手紙カードが6色6枚、合計8枚1組でお届けいたします。

「心の柱」私のよりどころ

「心の柱」は、「毎日読む經典」+「書いて残せるノート」です。

人生をよりよく生きるために、心のよりどころを持つことをお勧めするものです。

「柱ポスター」

檀信徒の方々へ告諭の敷衍を願い、平成30年度は「坐禅」を、令和元年度は「洗面」をとりあげました。

「坐禅を中心とした生活の全てが御仏の行いである」というお諭しから、朝起きたらまず顔を洗い、それから仏壇に手を合わせ、食事をいただく、そうすれば生活の全てが御仏の行いとなります。ポスターを眼のつく場所に掲げて日々の心の柱に活かしていただき、家族みんなですつとめていただけるよう作成しました。告諭を中面に配した畳紙とのセットでお届けいたします。

それぞれ教化資料として、ぜひ活用ください。

(資料は無料ですが、送料をご負担いただきます)

※忘れま箋の申し込みは宗務庁にて承っております。

令和3年度より教化資料の製作は宗務庁に一元化されました。



令和6年度 行事予定

■ 禅をきく会

第190回 4月18日(木)

曹洞宗特派布教師・神奈川県東泉寺住職 関水 俊道 老師
「生きる力」となる教え」

第191回 6月5日(水)

看護師・僧侶 玉置 妙憂 氏
「今より少し楽になるかもしれない生き方のご提案」

第192回 8月1日(木)

大本山總持寺副貫首・岩手県正法寺専門僧堂堂長 盛田 正孝 老師
「瑩山禅師に学ぶ」

第193回 10月17日(木)

曹洞宗特派布教師・岩手県永昌寺住職 海野 義範 老師
「繋がる思い 繋がる絆」

第194回 12月17日(火)

元曹洞宗国際センター所長 藤田 一照 老師
「仏教の始原〜釈尊の「樹下の打坐」から学ぶ〜」

第195回 令和7年2月17日(月)

学校法人梅檀学園・東北福祉大学学長 千葉 公慈 老師
「心を満たす仏教の知恵―日々を楽しむために―」

■ 教化フォーラム

・期日 55回 7月8日(月)

・会場 56回 9月9日(月)
ホテルモントレ仙台

■ 教化指導員研修会

・期日 11月11日(月)

・会場 ホテルモントレ仙台

■ 布教講習会

・期日 7月25日(木)〜26日(金)

・会場 秋田市

■ 布教師特設検定

・期日 7月26日(金)

・会場 秋田市

・検定科目 令命1等・令命2等

■ 坐禅ナイト

・期日 2024春

5月7・14・21・28日(全4回)

2024秋

10月8・15・22・29日(全4回)

・会場 東北福祉大学東口キャンパス

・時間 午後7時半〜午後9時

New 電話番号が
変わりました

教化センター HP



曹洞宗東北管区教化センターテレフォン法話 心の電話

24時間
年中無休

022-341-1531